

「アユ 元気に育て」

一ツ瀬川 児童ら稚魚放流

ホースで勢いよく放流される稚アユを
観察する子どもたち



河川環境の大切さを知って
もらおうと、一ツ瀬川水系濁
水対策推進協議会は28日、新
高町の柳瀬大橋下河川敷でア
ユの稚魚を放流した。同町の
ほか西都、宮崎市の子どもら
約80人が参加し、川で元気に
泳ぐ稚アユを見送った。

本庄川

一ツ瀬川水系漁協連絡協議
会との共催で350匹、4万
5千匹を放流。参加者はバケ
ツで稚アユを川に運んだ後、
トラックからホースで川の中
に移される様子を観察。水の
流れに逆らって泳ぐ魚を見て
「頑張れ」と声援を送った。都
於郡小の、ともに5年の湊優
夏さん(10)は「稚アユはとて
も小さかった」、清由佳さん
(10)は「元気が良くて川で飛
び跳ねていた」と話していた。
同協議会の会長を務める橋
田和美西都市長は「ダムや堰
(せき)による濁流対策も進
められているが、市民町民が
一生懸命取り組むことで、清
流を取り戻すことができる」
と呼び掛けた。

みやまみん

本庄小4年生

稚アユを放流

国富漁業協同組合(久保作
夫組合長)は4月26日、本庄小
(児玉和盛校長、402人)
の4年生65人を招いて稚アユ
の放流会を開いた。写真。

河川環境を守る心を養っ
てもらおうと毎年実施してい
る。本庄川河川敷で久保組合
長が児童たちにアユの生態を
説明し「きれいな川でない
と生息できないのでごみを捨
てないでください」と呼び掛
けた。児童は稚魚の入ったバケ
ツをそっと水中に入れ、約7

500匹を放した。

宮田九杜さん(9)は「初め
てアユを触ることができて乗
しかった。ごみを拾っていつ
までもアユが育つきれいな川
にしたい」と話していた。

